

平成 29 年度(平成 28 年度実績事業)

下田市教育委員会自己点検・評価報告書

平成 29 年 11 月

下田市教育委員会

目 次

はじめに	1
教育委員会点検・評価の概要	
1 点検・評価の趣旨	2
2 教育委員会会議の開催状況	3
3 教育委員会会議での審議状況	3～5
4 教育委員会会議以外の活動状況	5
5 施策ごとの取組状況	5～8
点検・評価シート	9～45
6 有識者委員会	46
7 有識者委員会の意見	46～47
8 下田市教育委員会点検評価に関する有識者委員会設置要綱	48～49

はじめに

下田市教育委員会の自己点検・評価は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号。以下「地教法」という。）第26条の規定に基づき、毎年、その権限に属する主要な施策や事務事業について1年間の活動状況の課題や取組の方向性を、自ら点検及び評価を行い、有識者による外部の知見を入れることで、今後の効果的な教育行政の一層の推進を図るものです。

この結果を、第4次下田市総合計画に定められた基本目標に基づく今後の施策に十分に活かし、「人が輝くまちづくり」を担う就学前教育・学校教育及び生涯学習における教育学習環境を更に充実し、活力ある教育行政を推進することで下田市が目指すまちづくりの一役に努めてまいります。

また、平成27年度に策定した下田市教育大綱における本市教育の基本理念である『開国のまちから 夢をつなぐ「未来の人づくり」「自ら学ぶ人づくり」』を推進してまいります。

下 田 市 教 育 委 員 会

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

下田市教育委員会教育委員名簿

（平成28年度当初 在籍委員）

職 名	氏 名	任 期
委員(教育長職務代理者)	田 中 とし子	H25. 3. 15～H29. 3. 14
委 員	渡 邊 亮 治	H26. 12. 13～H30. 12. 12
委 員	土 屋 康 宣	H24. 12. 15～H28. 12. 14
委 員	天 野 美 香	H25. 12. 14～H29. 12. 13
教 育 長	佐々木 文 夫	H27. 7. 21～H30. 7. 20

※ 平成28年12月15日 西堀政幸委員就任

平成29年3月15日 田中とし子委員再任

教育委員会点検・評価の概要

1 点検・評価の趣旨

(1) 点検・評価の目的

教育委員会は、地教行法第26条の規定に基づき、毎年事務の管理及び執行状況について、学識経験を有する者の知見の活用を図り、自ら点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に報告するとともに、市民に公表しています。

この自己点検・評価は、教育委員会の責任体制の明確化と教育行政の説明責任を果たすことを目的としています。

(2) 点検・評価の対象

点検・評価にあたっては、平成28年度に実施した事務事業について、下田市教育大綱で掲げる本市教育の基本理念である『開国のまちから 夢をつなぐ「未来の人づくり」「自ら学ぶ人づくり』』を念頭におきながら、6つの目標「自分のまちや学校、自分自身に誇りをもてる「未来の人づくり」を推進します。」「「生きる力」の基礎を育む就学前教育を推進します。」「家庭、地域、学校と関係機関が連携し、豊かな感性と社会性のある青少年を育成します。」「いつでも、だれでも生涯にわたり学習できるまちを目指します。」「歴史的・文化的資源を保存、継承し、文化芸術活動を推進します。」「市民がいつでも気軽にスポーツできるまちづくりを目指します。」に分類して、点検・評価の対象としました。

(3) 点検・評価の方法

点検・評価については、施策、事業の執行状況を明らかにするとともに、課題等を分析検討した上で、今後の対応方向を記述しました。

事業は、点検・評価シートに基づき点検・評価を行い、教育委員の評価として

- | | |
|---|-----------------------|
| A | 「十分成果が上がって良好に行われている。」 |
| B | 「成果が上がって概ね良好に行われている。」 |
| C | 「成果が十分に上がっておらず改善が必要。」 |

のいずれかの評価とその評価に基づくコメントを記載しました。

また、点検・評価の客観性の確保のため、教育に関し学識経験を有する方等外部の意見をお聞きするため、外部評価委員会を開催しました。

2 教育委員会会議の開催状況

教育委員会では、毎月 20 日以降を目処に月 1 回の定例会を開催する計画を立て、必要に応じて臨時会を開催しています。

平成 28 年度は 12 回の会議を開催しました。

定例会	臨時会	合計
12回	0回	12回

3 教育委員会会議での審議状況

地教行法第 25 条及び下田市教育委員会会議規則(平成 27 年下田市教育委員会規則第 2 号)に基づき、平成 28 年度は 45 件の議案を審議しました。

区分	番号	議案名
4 月定例会 4 月 27 日(水)	報第 1 号	専決処分の承認を求めることについて (下田市立図書館長の任命について)
	報第 2 号	専決処分の承認を求めることについて (下田市公民館長の任命について)
	報第 3 号	専決処分の承認を求めることについて (下田市スポーツ推進委員の委嘱について)
	報第 4 号	専決処分の承認を求めることについて (下田市立青少年海の家所長の任命について)
	報第 5 号	専決処分の承認を求めることについて (下田市青少年補導センター所長の任命について)
	報第 6 号	専決処分の承認を求めることについて (下田市青少年補導センター補導員の委嘱について)
	報第 7 号	専決処分の承認を求めることについて (下田市社会教育委員兼公民館運営審議会委員の委嘱について)
	報第 8 号	専決処分の承認を求めることについて (下田市立幼稚園管理規則の一部を改正する規則の制定について)
	議第 20 号	自家用車の公務使用に関する要綱の一部を改正する要綱の制定について
5 月定例会 5 月 24 日(火)	議第 21 号	市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について (下田市子どものための教育・保育に関する利用者負担額を定める条例の一部を改正する条例の制定について)
	議第 22 号	市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について (下田市民スポーツセンター条例の一部を改正する条例の制定について)
	議第 23 号	市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について (平成 28 年度下田市一般会計補正予算第 1 号)
	議第 24 号	要保護及び準要保護児童生徒の認定について
6 月定例会 6 月 29 日(水)	議第 25 号	下田市社会教育委員会からの答申について
	議第 26 号	要保護及び準要保護児童生徒の認定について
7 月定例会 7 月 28 日(木)	議第 27 号	要保護及び準要保護児童生徒の認定について

区 分	番 号	議 案 名
8月定例会 8月26日(金)	議第28号	市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について (平成28年度下田市一般会計補正予算第3号)
9月定例会 9月29日(木)	議第29号 議第30号	下田市立中学校再編検討会議設置要綱の制定について 下田市立幼稚園管理規則の一部を改正する規則の制定について
10月定例会 10月28日(金)	議第31号 議第32号	下田市民スポーツセンター条例施行規則の一部を改正する規則の制定について 市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について (賀茂地域の広域連携に係る連携協約の変更について)
11月定例会 11月24日(木)	議第33号 議第34号 議第35号 議第36号 議第37号 議第38号	市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について (下田市子どものための教育・保育に関する利用者負担額を定める条例の一部を改正する条例の制定について) 市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について (下田市学校施設整備基金条例の制定について) 市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について (下田市立学校給食共同調理場設置条例を廃止する条例の制定について) 下田市立学校給食共同調理場設置条例施行規則を廃止する規則の制定について 市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について (平成28年度下田市一般会計補正予算第5号) 要保護及び準要保護児童生徒の認定について
12月定例会 12月19日(月)	議第39号 議第40号	下田市立学校給食共同調理場設置条例施行規則を廃止する規則の施行期日を定める規則の制定について 要保護及び準要保護児童生徒の認定について
1月定例会 1月25日(水)	議第1号 議第2号	下田市立学校管理規則の制定について 下田市立学校処務規程の制定について
2月定例会 2月20日(月)	議第3号 議第4号 議第5号 議第6号	自家用車の公務使用に関する要綱の一部を改正する要綱の制定について 市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について (平成28年度下田市一般会計補正予算第7号) 市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について (平成29年度下田市一般会計予算) 静岡県費負担教職員人事の内申について
3月定例会 3月21日(火)	議第7号 議第8号 議第9号 議第10号 議第11号 議第12号 議第13号	下田市教育委員会事務局職員の人事異動について 社会教育指導員の任命について 下田市教育委員会公印規則の一部を改正する規則の制定について 下田市就学相談委員会規則の一部を改正する規則の制定について 下田市英語検定受検推進補助金交付要綱の制定について 下田市学校教育の基本方針について 下田市第10次教育環境整備五ヶ年計画の策定について

区 分	番 号	議 案 名
3月定例会 3月21日(火)	議第14号	下田市立中学校再編手法及び新中学校候補地等に関する報告書の策定について
	議第15号	下田市立学校等再編整備審議会委員の委嘱について
	議第16号	要保護及び準要保護児童生徒の認定について

①基本方針 1件 ②議案の原案の決定 11件 ③規則及び規程の改定又は改廃 9件 ④人事 10件
⑤準要保護児童生徒の認定 6件 ⑥その他 8件 合計 45件

4 教育委員会会議以外の活動状況

(1) 社会教育施設巡回訪問

実 施 日	場 所
10月20日(木)	下田市立図書館、白浜公民館、本郷公民館、中公民館、稲生沢公民館、朝日公民館

※巡回訪問前に下田小学校において、給食会食。

(2) 教育委員会点検評価有識者委員会

実 施 日	場 所
10月20日(木)	下田市立中央公民館

5 施策ごとの取組状況

教育委員会では、それぞれの基本目標を実現させるための施策の項目に対応する事業について点検・評価シートを作成し内部で点検・評価を行い、その後外部評価をいただき、意見をまとめました。

目標1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。

目標実現のための施策		事 業 等	Page
「学びの実感」を 積み重ねる授業づくり	確かな学力を育成する授業の推進	市指定研究校への支援 市研修主任研の開催 校内研修への支援	9
	生徒指導が機能する授業の推進	市生徒指導研の開催 授業づくり支援 市初任研の開催	10
	特別支援教育の充実	児童・生徒適応指導事業 特別支援教育体制推進事業	11
「豊かな感性」を 育む教育活動の推進	下田の歴史と文化、自然を学ぶ 学習の推進	体験プログラム事業	12
	コミュニケーション能力の 素地を養う英語教育の推進	英語力向上プロジェクト事業 中学校ALT(外国人講師等) 小学校外国語活動へ社会人を 活用	13
	子ども一人ひとりの心に響く 道徳教育の充実	道徳教育の充実	14

目標実現のための施策		事業等	Page
「豊かな感性」を育む 教育活動の推進	感性を磨き、豊かな心を育てる 読書活動の充実	学校司書の配置 新刊図書の購入	15
「開かれた学校づくり」の 推進	内と外に開かれた信頼される 学校づくりの推進	学校公開と学校評価による 教育活動の改善 地域の人材活用	16
	関係機関との連携体制の構築 と子どもを守る体制の強化	関係機関との連携 “チーム学校”の推進	17
	幼保・小・中・高の連携の強化	幼保こども園との連携 小中連携	18
「安心・安全な 環境づくり」の推進	自助、共助の力を育成する防災 教育、安全教育の充実	地域と連携した防災教育 通学路安全対策推進事業	19
	人権意識を育む学校づくりの推進	不登校いじめ対策連絡協議会 市初任研修 人権擁護委員による人権の花 運動・学校訪問 全国中学校人権作文コンテス トへの参加	20
教育施設・環境整備 の推進	児童生徒のよりよい学びに向けた 学校再編整備	下田市立4中学校再編整備	21
	安心・安全な給食を提供する 学校給食センターの運営	学校給食管理運営事業	22
	I C Tを活用した授業実践を行う 体制の整備	小学校教育振興事業 中学校教育振興事業	23
	既存学校施設整備	小学校及び中学校管理事業 単独学校施設災害復旧事業 下田市学校施設整備基金条例	24

目標2 「生きる力」の基礎を育む就学前教育を推進します。

目標実現のための施策		事業等	Page
就学前教育の充実	幼保再編後の子育て支援の充実と 地域との連携	公立保育所・認定こども園・幼 稚園の管理運営事業	25
		民間保育所事業 子育て支援事業	26
	教職員の資質と能力の向上に 向けた研修の充実	園内研修の実施 園外研修への派遣	27
施設・環境整備の推進	認定こども園を核とした 施設・環境整備	公立保育所管理運営事業 放課後児童対策事業 幼稚園管理事業	28

目標3 家庭、地域、学校と関係機関が連携し、豊かな感性と社会性のある青少年を育成します。

目標実現のための施策		事業等	Page
青少年活動の充実	地域活動への参加や地域との交流を深める機会の充実	青少年海の家管理運営事業、青少年健全育成事業	29
	文化や芸術、スポーツなどの青少年活動との連携	青少年健全育成事業	30
	家庭、地域、学校との連携を図った非行防止に向けた運動の推進	青少年健全育成事業	31

目標4 いつでも、だれでも生涯にわたり学習できるまちを目指します。

目標実現のための施策		事業等	Page
生涯学習活動の推進	市民のニーズに合った学習プログラムの提供	成人活動推進事業、公民館活動推進事業	32
	図書館ボランティアとの連携による図書館サービスの充実	図書館管理運営事業	33
	社会教育団体などの自主的学習活動の支援	社会教育団体などの自主的な学習活動の支援	34
学習施設の再編、整備	新たな図書館の建設	図書館協議会等	35
	地域の実情に見合った公民館の再編整備	公民館管理運営事業	36

目標5 歴史的・文化的資源を保存、継承し、文化芸術活動を推進します。

目標実現のための施策		事業等	Page
文化施設の整備	市民文化会館などの施設の改修	市民文化会館管理運営事業	37
文化・芸術活動の活性化	文化事業や講座の開催	芸術文化振興事業	38
	自主的な文化活動への支援		
文化財の保存、継承と活用	国、県、市の指定文化財の保存と活用	芸術文化振興事業	39
	民俗芸能などの地域文化の継承		
	埋蔵文化財の保護・保全		
郷土資料の保存、継承と活用	郷土資料の保存や研究と市史編纂事業の実施	市史編さん事業	40
	郷土の文化財などの学習活動への支援		

目標6 市民がいつでも気軽にスポーツできるまちづくりを目指します。

目標実現のための施策		事業等	Page
施設の有効活用	学校施設の一般開放	保健体育総務事務	41
	利用者のニーズに応える施設整備	下田市民スポーツセンター 管理運営事業 吉佐美運動公園管理運営事業	42
スポーツの振興	市民が気軽に参加できる スポーツイベントの開催	社会体育活動推進事業	43
	NPO法人などと連携した 総合的なスポーツの振興	社会体育活動推進事業	44
	地域の指導者との連携 による健康づくり支援	社会体育活動推進事業	45

平成 29 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 28 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。		
	◇「学びの実感」を積み重ねる授業づくり	○確かな学力を育成する授業の推進	
事 業 等	市指定研究校への支援、市研修主任研の開催、校内研修への支援	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>【市指定研究校への支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 28 年 11 月 10 日(木) 下田市教育研究会指定研究発表（下田東中）市内全教職員参加 <p>【市研修主任研の開催 年 3 回（全国学力・学習状況調査結果検証委員会含む）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本年度の市の重点と各校の校内研修について 全国学力・学習状況調査結果検証委員会 魅力ある授業づくりについての協議 市指定研究発表のサポート（司会、記録等） <p>【校内研修への支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導主事による各小中学校の訪問と校内研修についての指導・助言。
検 証	<p>下田市教育研究会指定研究発表では、下田東中学校が 3 年間にわたる研究実践の成果を発表した。下田東中学校は、「夢や目標を持ち主体的に学習に取り組む生徒の育成～子どもの実態に応じた生徒の主体的な取組を引き出すための工夫～」を研究主題として、目の前の子どもに寄り添いながら、授業展開の工夫等を提案した。小規模校化が進む中、市内の教職員が一堂に集い、研修を深めた。</p> <p>市研修主任研では、子どもが主体的に学ぶ授業や学びの実感を積み重ねる授業を目指して、各校の研修主任と協議し、授業改善を進めた。また、全国・学力学習状況調査の結果を受け、本市児童生徒の課題を明らかにしながら、具体的な対応策を考えた。</p> <p>校内研修支援では、指導主事が各小中学校を訪問し、指導案検討や授業分析に関わることで、各校教員の資質・能力の向上に努めた。</p>
今 後 の 課 題 方 向 性	<p>新学習指導要領完全実施を見据えながら、子どもの主体的・対話的で深い学びが実現するよう、授業改善を進める。</p>
教 育 委 員 評 価	A 十分成果が上がって良好に行われている
	B 成果が上がって概ね良好に行われている
	C 成果が十分に上がっておらず改善が必要
評 価 に 対 す る コ メ ン ト	<p>各校において、熱心に授業改善の取り組みが進められている。今後も、児童生徒一人ひとりが学びを実感する授業づくりに取り組み、未来を担うたくましい子どもを育成していきたい。</p>

平成 29 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 28 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。		
	◇「学びの実感」を積み重ねる授業づくり	○生徒指導が機能する授業の推進	
事 業 等	市生徒指導研の開催、授業づくり支援、市初任研の開催	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>【市生徒指導研修会の開催 年5回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校の生徒指導担当者による情報交換 ・子ども一人ひとりを理解し、成長を支える生徒指導の推進 ・いじめ・不登校対策連絡協議会を兼ねた情報交換 <p>【授業づくり支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導主事による授業参観及び子ども理解を主眼においた事後研修会 ・学級づくりや人間関係づくりを基盤とした授業についての指導・助言 <p>【市初任者研修会 年4回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級づくりを基盤とした授業についての指導・助言 ・先輩授業の参観をきっかけとした、学級集団づくりについての協議
検 証	<p>市生徒指導研修会では、問題行動や不登校、いじめの報告だけでなく、「子ども一人ひとりを理解し、成長を支える」という視点で情報交換を行い、日々の学校生活や授業づくりに生かした。いじめ・不登校対策連絡協議会や南伊豆町との合同生徒指導研等を通して、子どもの実態を的確にとらえ、日々の授業づくりに生かすよう心がけた。</p> <p>各校への授業づくり支援では、指導主事が訪問を行う際、「生徒指導が機能する授業」「一人ひとりを大切に授業」を念頭に助言を行い、子ども理解を中心に据えた授業づくりを進めた。</p> <p>また、市初任者研修会では、日頃の授業づくりや生徒指導上の諸問題について悩みを語り合い、よりよい解決策を探るとともに、先輩の授業を参観する中で、生徒指導が機能する授業や互いに支え合う学習集団づくりについて学んだ。</p>
今後の課題 方 向 性	<p>確かな子ども理解のもと、互いに支え合う学級づくりを基盤として、日々の授業改善を進める。</p>
教育委員評価	A 十分成果が上がって良好に行われている
	<input checked="" type="checkbox"/> B 成果が上がって概ね良好に行われている
	C 成果が十分に上がっておらず改善が必要
評価に対する コ メ ン ト	<p>現在、様々な家庭環境や生育歴、背景を抱えた子どもたちが小中学校に通っている。そうした子どもたちを的確にとらえ、あたたかい雰囲気の中で安心して学ぶことができる授業づくりや学級づくりに努めたい。</p>

平成 29 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 28 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。		
	◇「学びの実感」を積み重ねる授業づくり	○特別支援教育の充実	
事 業 等	児童・生徒適応指導事業、特別支援教育体制推進事業	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>【支援員等の効果的な配置：臨時雇賃金 16,040 千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育支援員 15 名 <p>【市巡回相談等の実施：謝礼 317 千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育相談員（臨床心理士）による巡回相談（年 14 回実施） ・市就学相談委員会専門部会による幼保こども園の訪問。 <p>【幼児ことばの教室及び適応指導教室の運営：臨時雇賃金 2,656 千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児ことばの教室指導員 1 名 ・適応指導教室指導員 3 名 <p>【特別支援教育就学奨励費：994 千円】</p>
検 証	<p>特別支援教育支援員15名の配置を行った。各校において特別な配慮を要する児童生徒が増加していることから、各校の実態に応じて個に応じた効果的な支援を進めることができた。特別支援教育の充実を図ることで、発達に課題をもつ児童生徒への対応や不登校の未然防止等、子どもの思いや保護者の願いに寄り添った教育活動を進めた。</p> <p>市単独の予算措置により、特別支援教育相談員（臨床心理士）を中心とした巡回相談を年14回実施し、発達に課題をもつ幼児・児童・生徒への支援を進めた。また、就学に向けて、市就学支援委員会専門部会による幼保こども園への訪問を実施し、新学齢児の実態把握と適切な支援に努めた。</p> <p>幼児ことばの教室では、幼保こども園や市民保健課、福祉事務所等と連携しながら該当保護者に助言を行い、就学前に適切な支援がなされるよう努めた。また、適応指導教室指導員 3 名の配置等を行い、学校生活に適応できず不登校傾向にある児童生徒に対して、実態に応じた指導を進めた。</p> <p>なお、H28末に稲生沢小学校に通級指導教室（自 A L）新設を県に申請し、市としては、拠点校方式による特別支援教育の充実について構想するとともに、新設される通級指導教室について環境整備に取り組んだ。</p>
今後の課題 方 向 性	各校の実態に応じた支援員の配置をさらに進め、きめ細かな支援に取り組むとともに、特別支援教育体制を確立し、子ども一人ひとりの成長を支える。
教育委員評価	A 十分成果が上がって良好に行われている
	<input checked="" type="checkbox"/> B 成果が上がって概ね良好に行われている
	C 成果が十分に上がっておらず改善が必要
評価に対する コ メ ン ト	特別支援教育は、今後もさらに需要が高まり、対応が必要になるため、市費による支援員等の配置を適切に進めるとともに、更なる効果的な指導・支援を検討していきたい。

平成 29 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 28 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。		
	◇「豊かな感性」を育む教育活動の推進	○下田の歴史と文化、自然を学ぶ 学習の推進	
事 業 等	体験プログラム事業	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	【体験プログラム事業：1,650 千円】		
	稲梓小	バンブリングアート、ウナギ漁、鮎友釣り、自然薯栽培等	
	稲生沢小	椎茸菌打ち、ツリークライミング、シーカヤック、森林体験等	
	白浜小	サーフィン、魚釣り	
	浜崎小	干物作り、漁船体験、心太作り、水族館・寝姿山見学等	
	下田小	水族館・寝姿山見学、陶芸、防災教育、ジオサイト教育等	
	大賀茂小	稲作体験、みかん狩り、ジオサイト教育、歴史教育等	
	朝日小	ウミガメ研究、ミツバチ研究	
	稲梓中	稲作体験	
	稲生沢中	稲作体験	
	下田東中	サーフィン、ボディボード、SUP、シーカヤック等	
下田中	シーカヤック、シュノーケリング、海アート、職場体験等		
検 証	地域の「人、もの、こと」との積極的なかかわり合いを大切にし、地域に根ざした多様な自然体験・社会体験活動に触れるため、体験プログラム事業を実施した。市内全ての小中学校で実施し、地域の体験を通じてたくさんの感動が生まれるとともに、児童生徒一人ひとりの豊かな感性を育むことにつながった。		
今 後 の 課 題 方 向 性	多様な地域活動に触れるための機会の増加と、伝える側の人材育成。		
教 育 委 員 評 価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評 価 に 対 す る コ メ ン ト	下田市の恵まれた自然や歴史・文化を生かした体験学習を通じ、児童生徒の郷土を愛する心を育成するよう、より一層充実していきたい。		

平成 29 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 28 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。		
	◇「豊かな感性」を育む教育活動の推進	○コミュニケーション能力の素地を 養う英語教育の充実	
事 業 等	英語力向上プロジェクト事業、中学校 A L T (外国人講師等)・小学校外国語活動へ社会人を活用、ニューポート市中学生派遣事業	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>【英語力向上プロジェクト事業：1,440 千円】</p> <p>○春の交流（平成 28 年 5 月 19 日(木)～21 日(土)＜稲生沢小＞）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒船事前交流会（学生による英語活動、黒船交流会縦割り班活動計画等） ・黒船交流会（水兵さんとの黒船交流会、縦割り体験活動等） ・黒船ボランティアガイド（水兵さんに下田の史跡を案内） <p>○秋の交流（平成 28 年 10 月 6 日(木)＜稲生沢小＞、7 日(金)＜稲梓小＞）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生による英語活動 ・給食、昼休みにおける児童との交流 <p>○秋の交流報告会（平成 28 年 12 月＜玉川大学＞）</p> <p>【中学校 A L T ・小学校外国語活動へ社会人活用：3,509 千円】</p> <p>小中学校 11 校全てに A L T や社会人を派遣配置（A L T 2 名、社会人 3 名）。</p> <p>【ニューポート市中学生派遣事業：973 千円】</p> <p>中学生 4 名をニューポート市へ派遣（平成 28 年 7 月 12 日(火)～19 日(火)）。</p>		
検 証	<p>英語力向上プロジェクト事業において、玉川大学と連携し、新たにコミュニケーション能力の素地を養う英語教育を推進した。春の交流では稲生沢小を、秋の交流では稲生沢小と稲梓小をモデル校として、生きた英語を学んだ。子どもたちの英語に対する興味関心を高めるとともに、資質向上の貴重な機会となった。また、大学生との交流は、キャリア教育の視点からも成果が認められた。</p> <p>中学校 A L T ・小学校外国語活動へ社会人活用については、中学校 4 校、小学校 7 校全てに A L T や社会人を派遣配置し、専門性を活かした指導の充実を図るとともに、教員へのサポートを進めた。学級担任と連携しながら授業づくりに取り組むことで、小学校外国語活動や中学校英語科の授業の充実を推進した。</p>		
今後の課題 方 向 性	次年度から英語検定受検に対する補助金を新たに設置し、中学生に対する英語教育の充実を図っていきたい。		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	英語教育の重要性はますます高くなっているため、より一層充実していきたい。		

平成 29 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 28 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。		
	◇「豊かな感性」を育む教育活動の推進	○子ども一人ひとりの心に響く 道徳教育の推進	
事 業 等	道徳教育の充実	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>【道徳教育の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 30 年度より先行実施される「特別の教科道徳」についての研修の実施。 ・各校における具体的な授業実践の積み重ね。 ・教育活動全体を通じた心を耕す道徳指導の推進。 		
検 証	<p>平成 30 年度より、学習指導要領の一部改正により実施される「特別の教科道徳」について、各校において情報収集をするとともに、校内研修等で理解に努めた。また、指導訪問や校内研修で道徳の授業を取り上げ、具体的にどのような指導が有効か指導法を探った。道徳教育は教育活動全体で行われる必要があることから、各校で全体計画や別用を作成し、道徳教育の充実を目指してきた。</p> <p>道徳指導については、児童生徒の実態をもとに、日々の学校生活で場面を捉えて指導したり、従来の道徳授業を工夫したりしながら、子どもたちの道徳性の涵養を目指して取組を進めている。</p> <p>ただ、平成 28 年度の段階では、「特別の教科道徳」についての文部科学省等からの情報提供にも限りがあるため、今後の動向を踏まえた市の道徳研修会を開催するなどといった、市としての取組には至っていない。</p>		
今 後 の 課 題 方 向 性	「特別な教科道徳」について情報を共有するとともにその方向性を理解し、具体的な指導方法のあり方を探る。		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	子どもたちの道徳性を養うことは、変動が激しく価値観が多様化する社会を生きていく上で必要なことである。学習指導要領の一部改正を受け、適正な指導が行われるよう注視していきたい。		

平成 29 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 28 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。		
	◇「豊かな感性」を育む教育活動の推進	○感性を磨き、豊かな心を育てる 読書活動の充実	
事 業 等	学校司書の配置、新刊図書の購入	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>【学校司書の配置 小学校 7 校、中学校 4 校を巡回：臨時雇賃金 1,465 千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校司書 1 名を配置。 ・市内全小中学校（巡回）における学校司書による読書環境の充実。 <p>【新刊図書の購入：図書購入費 2,183 千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年の発達段階に応じた優良図書の購入。 ・読書感想文推薦図書の購入。 		
検 証	<p>学校司書 1 名を任用し、小学校 7 校、中学校 4 校を巡回訪問することで、各校における読書環境の充実に努めた。</p> <p>年度当初、各校から挙げられたアンケートをもとに学校司書に各校のニーズを伝え、学校司書が専門性を生かして指導にあたった。主な活動として、発達段階に応じた優良図書の紹介、掲示物の作成等図書室の環境整備、委員会や担任等と連携した読み聞かせの実施、新刊図書購入時のアドバイス、図書館の使い方についての指導等に取り組んだ。</p> <p>専門性が必要となる一人職であることや、研修の機会が少ない実情を踏まえ、読書指導にかかわる研修会に参加し、さらに専門性を高めるとともに、研修会で得られたことを学校司書の活動に生かした。</p> <p>読書環境の充実のためには、新刊図書の購入は必要不可欠であることから、読書感想文推薦図書を全校分購入したり、子どもたちにとって魅力的な新刊図書を購入したりする等、各校の学校図書館の蔵書充実に努めた。</p>		
今後の課題 方 向 性	学校司書の任用を継続・拡大し、市内全小中学校における読書環境を充実させたい。		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	読書は子どもたちの心を耕し、豊かな感性を育むことにつながる。調べ学習等、教科等の学習を充実させるためにも効果的であることから、専門的な知識をもった学校司書の配置及び読書指導の充実を図っていきたい。		

平成 29 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 28 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。		
	◇「開かれた学校づくり」の推進	○内と外に開かれた信頼される学校づくりの推進	
事 業 等	学校公開と学校評価による教育活動の改善、地域の人材活用	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>【学校公開】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校だより等による自校の教育活動についての発信 ・積極的な学校行事の公開や一日参観等の実施 <p>【学校評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童や保護者を対象とした学校生活アンケートの実施 ・学校生活アンケートの結果をもとにPDCAを機能させた教育活動の改善 ・学校自己評価及び学校評議員等による学校関係者評価の実施 <p>【地域の人材活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技能教科等における地域の人材活用 ・総合的な学習における地域の専門家の活用
検 証	<p>学校行事や一日参観、総合的な学習の時間の発表等、積極的に学校を保護者や地域に公開した。保護者や地域の学校に対する関心は高く、多くの保護者や地域の方が学校の様子を参観する姿が見られた。また、各校の創意工夫により、学校だより等で子どもの様子や学校の現状、教育活動のねらい等を発信し、地域との連携に努めた。学校の教育活動に協力したいという地域の思いは各校で見られ、それぞれの学校で地域の教育力を生かした活動が進められた。</p> <p>学校評価では、どの学校でも年2～3回児童・保護者を対象とした学校生活アンケートを実施し、その結果を各家庭や地域に還すとともに、全職員で確認し、具体的な解決策を探った。また、学校自己評価を進めるだけでなく、学校評議委員や地域の有識者による学校関係者評価を実施し、教育活動の改善に努めた。</p> <p>各校の教育活動の特色を生かし、地域の専門家を招いての稲作活動や教科等相談員を活用した音楽、書写、総合的な学習を実施した。地域人材の活用を通して、開かれた学校づくりに取り組んだ。</p>
今後の課題 方 向 性	地域・家庭との連携・協働により「社会に開かれた教育活動」を実現する体制づくりを進める。
教育委員評価	A 十分成果が上がって良好に行われている
	<input checked="" type="checkbox"/> B 成果が上がって概ね良好に行われている
	C 成果が十分に上がっておらず改善が必要
評価に対する コ メ ン ト	保護者も地域も、自分たちの学校のために力を尽くしたい、学校の教育活動を支援たいと考えている。自校の教育活動の改善を進めるためにも、社会に開かれた学校づくりを推進していきたい。

平成 29 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 28 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。		
	◇「開かれた学校づくり」の推進	○関係機関との連携体制の構築と子どもを守る体制の強化	
事 業 等	関係機関との連携、“チーム学校”の推進	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>【関係機関との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県賀茂児童相談所、市（福祉事務所、市民保健課等）との連携 ・ 市要対協及び母子連絡会での情報共有 ・ 下田警察署との連携 <p>【“チーム学校”の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ S C 及び S S W（県任用）の活用 <p>* S C : スクールカウンセラー、S S W : スクールソーシャルワーカー</p>		
検 証	<p>虐待等から子どもを守るため、賀茂児童相談所や福祉事務所と連携しながら、情報を共有し、児童生徒の生命や安全を守るよう努めた。</p> <p>また、昨今発達に課題をもつ児童生徒による問題行動や不登校、学校生活への不適応も問題になっていることから、市民保健課及び福祉事務所と情報共有につとめ、早期からの適切な就学支援を進めることで、一人ひとりの子どもの成長を支えてきた。主に育児支援や乳幼児の虐待や療育等の問題については母子連絡会において、主に学齢児の虐待や療育、不登校等については要対協において、市教委担当者や学校・園の代表が情報交換をし、子どもや家庭の実態把握と効果的な対応を進めた。</p> <p>児童生徒の問題行動については、警察が関わる案件は少なかったものの、下田警察署と情報共有しながら対応した。</p> <p>県費による配置だが、平成 28 年度より S C だけでなく S S W が全校配置となった。新たに配置されることになった S S W について、市教委としてその趣旨や活用について各校を回り、周知に努めた。</p>		
今後の課題 方 向 性	<p>学校だけでは解決が難しい事案が増えていることから、外部機関と連携しながら対応を進めるとともに、S C や S S W 等を活用して“チーム学校”として子どもを守る体制を強化していく。</p>		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	<p>学校教育を取り巻く諸問題を解決していくには、各関係機関との連携は必要不可欠である。開かれた学校づくりを進め、チームとして教育活動に取り組む体制づくりを推進していきたい。</p>		

平成 29 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 28 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。		
	◇「開かれた学校づくり」の推進	○幼保・小・中・高の連携の強化	
事 業 等	幼保こども園との連携、小中連携	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>【幼保こども園との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼保こども園と小学校との児童間、職員間の交流 <p>【小中連携の教科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校区単位での合同研修会の実施 ・小中連携の強化 		
検 証	<p>幼保こども園と小学校との連携では、園児の小学校の行事への参加、入学説明会及び体験入学の実施、年度末の幼保こども園と小学校との引き継ぎ等を通して、子ども理解と適切な支援を進めた。</p> <p>小中の連携については、各校の創意工夫により、中学校教員による出前授業や体験入学時の部活動体験、互いの研究授業の参観等を通して、中1ギャップが生じないように取組を進めた。</p> <p>各中学校区では、夏季休業を利用して小中合同研修会を開催し、学区の子どもたちの実態把握に努めるとともに、育てたい子ども像や身に付けさせたい力、大切にしたい家庭での生活習慣等を共有した。各中学校区で、よりよい子どもの成長を願い、ノーゲームデーや業間運動の実施など、その学校の実態に応じた具体的な取組を進めてきた。</p> <p>ただ、幼保こども園と小学校との連携については、かつてと異なり、私立保育園を含めた4園から7小学校へ入学することから交流が難しくなったこと、高校との連携については、一部高校生による理科の出前授業等事例も見られるものの市としての取組は見られないことなど、課題がある。また、今後市内4中学校の統合を考慮すると、これまで以上に小小連携や小中連携が求められることから、幼保こども園、小学校、中学校、高校の連携をより強化していく必要がある。</p>		
今後の課題 方 向 性	幼保こども園、小学校、中学校、高校の連携を意識し、中学校統合も見据えた、具体的な児童生徒の交流や職員の交流を推進していく。		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	子どもの成長は幼保こども園から小学校、中学校、高校と切れ目なくつながっている。子どものよりよい成長を支えるためにも、幼保こども園小中高の連携強化を推進していきたい。		

平成 29 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 28 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。		
	◇「安心・安全な環境づくり」の推進	○自助、共助の力を育成する防災教育、 安全教育の充実	
事 業 等	地域と連携した防災教育、通学路安全対策推進事業	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>【地域と連携した防災教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校と地域が連携した防災教育の実施 ・学校や地域の実情に応じた防災訓練等の見直しと効果的な実施 ・津波を想定した各校の避難経路の確認と整備 下田小運動場避難路整備工事 692 千円 <p>【通学路安全対策推進事業（モデル地区：大賀茂小学校区）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全教育教室、指導用教材作成 ・危険箇所への交通安全施設（横断歩道・道路標示）を設置 		
検 証	<p>東日本大震災を受け、昨年度に引き続き学校における防災教育を見直し、それぞれの学校・地域の実情に応じた防災教育に力を入れた。各校の創意工夫のもと、大学との連携や県賀茂振興局危機管理課と連携した取組を進める等、防災教育の充実に努めた。</p> <p>また、津波や東南海トラフ地震を想定し、各校において避難経路や学校防災マニュアルの見直しに取り組んだ。それに伴い地域と共に備蓄品確保や避難訓練のあり方を考えるなど、安全かつ安心できる学校づくり目指し、取り組みを進めてきた。</p> <p>下田小学校については、避難経路として春日山の遊歩道を整備し、児童がより安全な避難ができるよう、環境を整えた。</p> <p>通学路安全対策推進事業については、大賀茂小学校区をモデル地区とし、静岡県通学路安全対策アドバイザーや関係機関、団体、地域住民などと連携を図り、通学路の安全対策を実施し、危険箇所に交通安全施設（横断歩道・道路標示）が設置され、児童の通学時の安全確保はもとより、地域住民や地域を通行する車両等に対する安全確保につながった。</p>		
今 後 の 課 題 方 向 性	津波や東南海トラフ地震等、大災害の発生に備え、安全かつ安心できる学校づくりを推進する。		
教 育 委 員 評 価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評 価 に 対 す る コ メ ン ト	東日本大震災等、全国でおきている大災害や災害時の対応を教訓とし、児童生徒の安全を守る防災教育の充実、安全な学校施設の整備、緊急時の体制づくり等、安全かつ安心できる学校づくりを努めたい。		

平成 29 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 28 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。		
	◇「安心・安全な環境づくり」の推進	○人権意識を育む学校づくりの推進	
事 業 等	不登校いじめ対策連絡協議会、市初任者研修、人権擁護委員による人権の花運動・学校訪問、全国中学生人権作文コンテストへの参加	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>【不登校いじめ対策連絡協議会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内児童生徒の不登校やいじめの状況についての情報共有及び協議 <p>【市初任者研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育の観点からの指導・助言 ・老人介護施設での社会体験 <p>【人権擁護委員による人権の花運動・学校訪問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権の花（ひまわり）の栽培及び学校現場における現状把握 <p>【全国中学生人権作文コンテストへの参加】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国中学生人権作文コンテストへの応募 		
検 証	<p>平成 28 年 12 月 20 日(火)に第 4 回市生徒指導研修会を兼ね、不登校いじめ対策連絡協議会を開催した。民生児童委員や各区長とともに、市内の小中学生の不登校やいじめの状況について情報共有を行い、様々な立場から市内の児童生徒一人ひとりの人権を守るよう取組を進めた。</p> <p>市初任者研修では、新規採用された教員に人権教育の観点から指導・助言をするとともに、老人介護施設での社会体験を実施し、人権感覚の育成に努めた。</p> <p>また、人権の花（ひまわり）の栽培や全国中学生人権作文コンテストへの応募を通じ、人権についての理解を深めた。</p>		
今後の課題 方 向 性	教育活動全体を通じて児童生徒の人権感覚を育てるよう意図的に教育活動に取り組むとともに、教職員の人権感覚の向上に努める。		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	やがて社会に出て、一人の社会人として生きていく子どもたちに、人権感覚を育ててほしい。そのためにも、教職員が人権感覚を身に付け、日々の教育活動において子どもたちと関わることを期待している。		

平成 29 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 28 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。		
	◇教育施設・環境整備の推進	○児童生徒のよりよい学びに向けた 学校再編整備	
事 業 等	下田市立 4 中学校再編整備	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	【中学校再編に関する取り組み】		
	下田市総合教育会議	2 回開催	
	下田市立中学校再編検討会議	4 回開催(うち中学校視察 1 回)	
	市長と語る会	6 回開催(市内 6 地区ごと)	
	保護者説明会	8 回開催(中学校 4 学区、幼保こども園)	
	保護者・教職員アンケート実施	配付 1,882 回収 1,222 回収率 65%	
下田市立中学校再編検討会議委員報償費 168 千円			
検 証	平成 28 年 8 月の下田市総合教育会議において『下田市立中学校再編に関する報告書』が取りまとめられ、その後、市長と語る会、総合教育会議報告書保護者説明会、下田市立中学校再編検討会議の設置など、中学校再編に関する様々な課題について、意見を聴取し検討した。平成 29 年 3 月にそれら検討した内容を取りまとめた『下田市立中学校再編手法及び新中学校候補地等に関する報告書』を教育委員会で承認し、中学校再編の方向性を示した。		
今 後 の 課 題 方 向 性	平成 29 年度当初に教育委員会の附属機関である下田市立学校等再編整備審議会を設置し、諮問、答申を経て、平成 29 年度上半期までには、中学校再編に関する下田市の方針を決定したい。		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	過去の反省を活かし、中学校再編に関する説明等を十分に行った上で、様々な意見を広く聞き、一歩ずつ着実に進めている。今後も保護者、学校、地域の声を大切にし、より良い中学校再編を推進していきたい。		

平成 29 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 28 年度事業）

1 施策体系・事業等

施策体系	目標 1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。		
	◇教育施設・環境整備の推進	○安心・安全な給食を提供する 学校給食センターの運営	
事業等	学校給食管理運営事業	担当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	<p>1 学期終業とともに 2 共同調理場(稲生沢・浜崎)及び 2 給食室(下田小・朝日小)を廃止・解体し、学校の 2 学期始業に合わせ、学校給食センターを稼働させた。調理配送業務は株式会社レクトンに民間委託を行っている。</p> <p>【債務負担行為】</p> <p>平成 27 年度 0 千円 平成 28 年度 37,800 千円 平成 29 年度 58,536 千円 平成 30 年度 58,536 千円 総 額 154,872 千円 請 負 先 株式会社 レクトン</p> <p>【2 共同調理場(稲生沢・浜崎)及び 2 給食室(下田小・朝日小)廃止・解体】</p> <p>維持工事費 29,264 千円</p> <p>【職員(調理員)配置について】</p> <p>正職員 4 人のうち 1 人の再任用職員は 7 月末で退職、2 人は学校用務員として、1 人は保育所調理員として配置換えを行った。また臨時職員の雇用は 7 月末までとし、臨時職員のうちの希望者は民間委託業者に全て採用された。</p>		
検 証	旧調理場等の廃止手続きと給食センターにおいて、安心・安全な給食提供を行った。		
今後の課題 方 向 性	給食会計の公会計化による学校事務の軽減を図りたい。		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	平成 28 年度当初からの給食センター稼働を目指していたが、2 学期から稼働したことは、やむを得なかった。これまでと同様、今後も継続して安心・安全な学校給食を提供していきたい。		

平成 29 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 28 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。		
	◇教育施設・環境整備の推進	○ I C Tを活用した授業実践を行う体制の整備	
事 業 等	小学校教育振興事業、中学校教育振興事業	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>【小学校教育振興事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書指導書（電子黒板用ソフト）1,461 千円 ・パソコンネットワーク保守委託 3,215 千円 <p>【中学校教育振興事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書指導書（電子黒板用ソフト等）6,196 千円 ・パソコンネットワーク保守委託 4,259 千円 ・パソコン教室用ソフト利用料 819 千円 		
検 証	<p>各小中学校に整備された電子黒板は、教材内容を視覚的に映写することができることから、どの学校でも授業での活用が進んでおり、更なる効果を高めるため電子黒板用ソフトの充実を図った。</p> <p>併せてパソコン教室に係る保守委託及びソフト利用料についてもパソコン環境を維持するため、事業執行をした。</p>		
今 後 の 課 題 方 向 性	<p>I C Tの活用は、子どもたちの確かな学力の育成や、授業改善にも役立っており、今後もさらに効果的な活用を進めていきたい。また、平成 30 年度には中学校パソコン教室のパソコン機器更新及び小中学校校務用パソコン機器更新の年度となるため、平成 29 年度中に学校長、担当教諭、学校教育課関係者で構成する学校 I C T教育環境整備検討委員会(仮)を設置し、I C Tの更なる活用に向けた検討を進めたい。</p>		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	<p>学校現場における I C T環境整備は、今後もますます重要となってくるため、より充実した環境整備を推進していきたい。</p>		

平成 29 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 28 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。		
	◇教育施設・環境整備の推進	○既存学校施設整備	
事 業 等	小学校管理事業・中学校管理事業・単独学校施設災害復旧事業・下田市学校施設整備基金条例	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>【小学校管理事業・中学校管理事業】</p> <p>屋内運動場天井改修工事（稲梓小・浜崎小）11,600 千円（交付金 3,905 千円） 〃（繰越明許分）（下田小・朝日小）21,524 千円（交付金 7,245 千円） 小学校トイレ改修工事（稲梓小・下田小・朝日小）3,989 千円 下田小運動場避難路整備工事 692 千円・浜崎小防護柵設置工事 540 千円 屋内運動場天井工事（稲梓中）12,420 千円（交付金 4,181 千円） 〃（繰越明許分）（稲生沢中）12,150 千円（交付金 4,090 千円） 稲生沢中学校屋内運動場トイレ改修工事 1,404 千円（助成金 1,000 千円） 下田中学校トイレ改修工事 930 千円 ※トイレ洋式化率 22.6% (73 基/323 基)</p> <p>【単独学校施設災害復旧事業】 参考)27 年度 19.4% (63 基/325 基)</p> <p>下田中南棟屋根復旧修繕 1,296 千円</p> <p>【下田市学校施設整備基金条例制定】</p> <p>学校施設整備基金積立金 150,000 千円</p>		
検 証	<p>学校施設環境改善交付金の採択を受け、防災機能強化事業として、落下の恐れのある従前の照明機器を更新するため、浜崎小、稲梓小及び稲梓中、繰越明許分として下田小、朝日小及び稲生沢中の照明 LED 化改修工事を実施した。</p> <p>静岡県市町村振興協会の助成を受け、稲生沢中屋内運動場トイレ洋式化工事を実施した。また老朽化した和式トイレを洋式トイレへと改修した。</p> <p>津波避難整備をしている春日山遊歩道へ繋がる下田小運動場避難路整備工事や旧浜崎調理場跡地駐車場に対する浜崎小防護柵設置工事を実施した。</p> <p>下田市立学校の改築、増築、大規模改修、緊急性を要する修繕など、学校施設整備を推進するため、平成 28 年 12 月下田市議会定例会にて下田市学校施設整備基金条例が制定され、基金として 150,000 千円を積み立てた。</p>		
今後の課題 方 向 性	<p>学校施設の計画的な整備を継続して進めるとともに、平成 29 年度に基金を取り崩し、稲梓小通路改修工事を実施したい。既存学校施設の整備とともに、今後想定される中学校再編事業にも対応していきたい。</p>		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	<p>かねてから懸念されていた老朽化対策の一助となる基金を効果的に活用していくとともに、学校施設の計画的な整備を推進していきたい。</p>		

平成 29 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 28 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 2 「生きる力」の基礎を育む就学前教育を推進します。		
	◇就学前教育の充実	○幼保再編後の子育て支援の充実と地域との連携	
事 業 等	公立保育所・認定こども園・幼稚園の管理運営事業、 民間保育所事業	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>【公立保育所・認定こども園・幼稚園の管理運営事業】</p> <p>職員人件費 207,686 千円 32 人（保育士等 29 人、調理員 4 人） 臨時雇賃金 64,192 千円 33 人（保育士等 26 人、調理員 7 人） 利用者負担金 47,071 千円（収入未済額 1,401 千円、不能欠損額 300 千円）</p> <p>【民間保育所事業】</p> <p>多様な保育推進事業補助金 10,961 千円 待機児童解消特別対策事業費補助金 780 千円 民間保育所給食費補助金 719 千円 民間保育所建設費償還事業補助金 2,100 千円 保育所運営費 157,630 千円 利用者負担金 38,494 千円（収入未済額 1,553 千円、不能欠損額 300 千円）</p>		
検 証	<p>保育所（公立 1 園、民間 2 園）、認定こども園（公立 1 園）、幼稚園（公立 1 園）の体制で就学前児童の教育・保育を実施した。また、一時的な保育ニーズに対応するため、下田保育所において、緊急・リフレッシュ保育事業を実施した（利用者 61 人）。</p> <p>民間保育所に対し運営費の支出の他、乳幼児・障害児保育、途中入所サポート、給食主食費等に対する補助金の交付を行い、適正な運営体制の確保に努めた。</p> <p>年収約 360 万円未満相当の多子世帯、ひとり親世帯等に対する利用者負担額（保育料）の軽減措置を拡充し、保護者の経済的負担の軽減を図った。</p>		
今後の課題 方 向 性	<p>家族形態やライフスタイルの多様化に伴う教育・保育ニーズに応えるサービスの提供に努める。</p> <p>民間保育施設に対し、適切な運営体制の確保に向けた支援、指導を継続して行っていく。</p>		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	<p>保護者や地域の方々と連携し、適切な運営を実施することができた。今後も引き続き、就学前教育の充実を図っていきたい。</p>		

平成 29 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 28 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 2 「生きる力」の基礎を育む就学前教育を推進します。		
	◇就学前教育の充実	○幼保再編後の子育て支援の充実と 地域との連携	
事 業 等	子育て支援事業	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>【地域子育て支援センター運営事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員人件費 8,057 千円、臨時雇賃金 4,172 千円 交流の場の提供（開放）、子育て相談 41 件、支援センター通信の発行、講習等の実施 22 回（ベビーマッサージ、乳幼児救命講習、親子体操教室ほか）、地域子育て支援活動 57 回（おでかけ広場、体育館で遊ぼう、誕生会、発育測定 ほか） <p>【放課後児童対策事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 下田・稲生沢小学校に放課後児童クラブ（指導員 7 名、臨時雇賃金 8,732 千円） 利用者負担金 4,771 千円（収入未済額 151 千円） <p>【ファミリーサポートセンター事業】</p> <p>まかせて会員養成講座（受講者 5 名、委託料 200 千円）</p> <p>【病児保育事業、実費徴収に伴う補足給付事業】</p> <p>病児保育事業補助金 995 千円</p> <p>実費徴収に伴う補足給付（教材費・行事費等の実費徴収額の一部助成）36 千円</p> <p>【中学生赤ちゃんふれあい体験、子育て支援ガイドブック】</p> <p>中学生赤ちゃんふれあい体験（3校で実施）、子育て支援ガイドブック発行</p>		
	検 証	<p>子育て支援センターでは、親子の交流の場の提供、各種講座の開催、子育て相談等を実施し在宅で子育てする保護者の孤立化、育児不安の解消に努めた。</p> <p>保護者の就労と育児の両立を支援するため、放課後児童クラブ及びファミリーサポートセンターの運営を行ったほか、病気のため集団保育が困難な児童を、一時的に預かる病児保育施設の開設に対し補助金を交付し支援を行った。</p> <p>民間団体や関係機関の協力を得て「下田子育て支援ネットワーク」を組織し、子育て支援ガイドブックの作成や、中学生赤ちゃんふれあい体験を実施した。</p>	
今後の課題 方 向 性	子ども・子育て支援事業計画に基づき、安心して子育てをできるよう各種事業の整備、充実を図る。		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	子育て世帯のニーズが多様化している中、子育て支援の更なる充実が望まれる。		

平成 29 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 28 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 2 「生きる力」の基礎を育む就学前教育を推進します。		
	◇就学前教育の充実	○教職員の資質と能力の向上に向けた研修の充実	
事 業 等	園内研修の実施、園外研修への派遣	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>【園内研修の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体研修（定例職員会議）、テーマ別研修（発達支援、防災・安全対策、食育） <p>【幼保連携研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年齢別研修 <p>【園外研修への派遣】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・階層別研修（園長研修会、主任保育士研修会、教頭・主任研修会、初任者研修） ・課題に対応した研修（防災担当者研修会、発達障害療育支援専門講座、乳幼児研修会、食育研修会等） 		
検 証	<p>園内研修では、テーマに沿った話し合いを行うことで職員の共通理解や実践力の向上につながっている。また、職員全員がそろって実施することが難しいため、テーマ別にグループに分けて行うなど効率よく研修できるようにしている。</p> <p>幼保連携研修では、保育所、幼稚園、こども園の担当年齢別のグループにより、当該年齢児の課題に沿った事例検討等を行い保育のあり方の共通認識を図り、相互理解を深めることができた。</p> <p>園外研修については、勤務年数や配置に応じて適切な職員を派遣するとともに研修成果をより広げるため、園内報告を実施している。また、園外研修参加に係る代替教諭等の配置を行い研修に参加しやすい体制づくりに努めた。</p>		
今 後 の 課 題 方 向 性	園内、園外において園や教諭・保育士等の課題に応じた研修が計画的に実施できるよう研修体制を整え、研修機会の確保に努めていきたい。		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	今後も効果的な研修を推進し、幼児教育・保育の質の向上に努めたい。		

平成 29 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 28 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 2 「生きる力」の基礎を育む就学前教育を推進します。		
	◇施設・環境整備の推進	○認定こども園を核とした 施設・環境整備	
事 業 等	公立保育所管理運営事業、放課後児童対策事業、幼稚園管理事業	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>【公立保育所管理運営事業】 下田保育所エアコン機器取替修繕 1,764 千円</p> <p>【放課後児童対策事業】 下田小学校多目的ルームエアコン設置工事 1,097 千円 下田小学校放課後児童クラブ室整備工事 9,241 千円（補助金 6,485 千円）</p> <p>【幼稚園管理事業】 下田幼稚園照明器具取替修繕 1,296 千円</p>		
検 証	<p>公立保育所、幼稚園の施設や設備の老朽化が進行する中、下田保育所 0・1 歳児保育室のエアコン取替修繕、下田幼稚園の教室照明器具 LED 化などを実施し入所児童の保育環境を維持するために施設等の管理に努めた。</p> <p>下田小学校放課後児童クラブの夏休み等長期休み期間中の児童の受入れ環境改善のため、エアコン設置工事及び放課後児童クラブ室整備工事を実施した。</p>		
今後の課題 方 向 性	<p>安全・安心な教育・保育環境を確保するため、継続して各施設の維持管理や整備に取り組んでいく。また、津波浸水域内にある施設の更なる安全対策を検討し、推進していく必要がある。</p> <p>未設置校からも、放課後児童クラブの利用ニーズがみられることから、開設等について検討が必要である。</p>		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	計画的に修繕・整備等を実施し、良好な環境整備に努めたい。		

平成 29 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 28 年度事業）

1 施策体系・事業等

施策体系	目標 3 家庭、地域、学校と関係機関が連携し、豊かな感性と社会性のある青少年を育成します。		
	◇青少年活動の充実	○地域活動への参加や地域との交流を深める機会の充実	
事業等	青少年海の家管理運営事業、青少年健全育成事業	担当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	<p>○青少年海の家管理運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨時雇賃金（管理人） 120 千円 ・光熱水費 74 千円 ・消防設備点検委託 97 千円 <p>○青少年健全育成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青少年健全育成啓発用品 25 千円 ・青少年健全育成看板作成 14 千円 		
検証	<p>青少年海の家は、地元区誘致の教育旅行（16 校 2,367 人）の利用がほとんど占めており、施設の耐震性を考慮し、平成 24 年 4 月から宿泊制限を実施している。平成 28 年度の利用状況は、市内利用者 388 人、市外利用者 2,862 人、計 3,250 人で、使用料収入 46,790 円であった。</p> <p>青少年健全育成事業としては、下田市青少年健全育成連絡協議会を 2 回開催し、各地区育成会の事業報告・計画等を協議した。また、各キャンペーン（夏季非行・被害防止、冬季青少年健全育成、未成年者喫煙防止啓発）を行い、啓発グッズを配付し、市民意識の向上に努めた。</p> <p>各地区育成会に輪番で育成会標語看板の作成を依頼し、子どもたちの意識の向上に努めた。</p>		
今後の課題 方向性	<p>青少年海の家は、耐震性がなく老朽化が進み、宿泊制限を実施する建物であり、今後、施設のあり方についての検討が必要である。</p> <p>青少年健全育成は、地域社会と青少年の関わりが希薄になっていく中で、その関わりを維持できるかが課題であり、地域や学校、警察等の協力体制が必要。</p>		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コメント	<p>青少年海を家の施設は老朽化が進む中、限られた予算内で適切な維持管理ができています。地元区との協働により施設の良好な管理と有効利用に努めたい。また、青少年健全育成事業については、今後も引き続き青少年に対する声掛けや見守りをお願いし、子どもたちの健全育成のために関係機関と協力していきたい。</p>		

平成 29 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 28 年度事業）

1 施策体系・事業等

施策体系	目標 3 家庭、地域、学校と関係機関が連携し、豊かな感性と社会性のある青少年を育成します。		
	◇青少年活動の充実	○文化や芸術、スポーツなどの青少年活動との連携	
事業等	青少年健全育成事業	担当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	○講座開催状況		
	講座名		参加者
	親子漁船魚釣り教室		16組 48人
	親子海藻押し葉教室		台風のため中止
	・講師謝礼 54千円		
検証	地域の特性を活かした体験的な講座を開設し、親子のふれあう機会を創出するため、平成 28 年度は親子漁船釣り教室を開催し、16 組 48 人の参加があった。		
今後の課題 方向性	例年開催していた天体観測は振興公社で、海藻押し葉教室はしーもんどと民間で同様の事業を行う傾向にあり、教育委員会として新たな事業を模索する段階に来ているのではないかと考えます。 下田という立地条件から海を題材にした講座が多かったため、他の分野についても検討し、広く事業実施について検討していきたい。		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コメント	子どもたちの健全なる育成の一助になるよう、教育委員会だからこそできる事業や下田の歴史や風土を生かした事業を検討していきたい。		

平成 29 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 28 年度事業）

1 施策体系・事業等

施策体系	目標 3 家庭、地域、学校と関係機関が連携し、豊かな感性と社会性のある青少年を育成します。		
	◇青少年活動の充実	○家庭、地域、学校との連携を図った非行防止に向けた運動の推進	
事業等	青少年健全育成事業	担当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	○補導の実施や育成会との連携を行い、青少年の健全な成長に関する取り組み ・青少年補導員報酬 230 千円 ・講師謝礼 54 千円		
検証	青少年補導センターで、補導員による市内各地の巡視を実施した。 青少年の非行被害防止事業として、県内一斉街頭補導指導及び店舗の立入調査及び街頭キャンペーンを実施した。 また、育成会と合同で研修会を開催し、講師から沼津市の補導活動についての紹介や家族・親子・地域での子どもへの接し方について講演をいただいた。		
今後の課題 方向性	スマートフォンや携帯電話などの被害から青少年を守るため、関係機関や地域との連携を深め青少年の非行防止や声掛け運動を推進していく。		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コメント	青少年の健全育成を推進するため、関係機関と連携し呼びかけを行うとともに、国や県の先進事例を取り入れ、より一層の青少年の健全育成を推進していきたい。		

平成 29 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 28 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 4 いつでも、だれでも生涯にわたり学習できるまちを目指します。		
	◇生涯学習活動の推進	○市民のニーズに合った学習プログラムの提供	
事 業 等	成人活動推進事業、公民館活動推進事業	担 当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	○各種学級の開設			
	名 称	対 象	延人員	内 容
	寿 大 学	高齢者	604	教養・健康・安全・歴史講座
	寿大学趣味クラブ	高齢者	360	カラオケ
	家庭教育学級	P T A	1,535	12 学級、親の役割と青少年の育成等
	水産・海洋学講座	成 人	102	県、大学の研究機関等による市民講座
	公 民 館 講 座	市 民		各公民館にて、12 講座、113 回開催
	<ul style="list-style-type: none"> ・寿大学講座講師謝礼 7 千円 ・家庭教育学級委託 180 千円 ・水産・海洋学講座講師謝礼 14 千円 ・公民館講座講師謝礼 129 千円 			
検 証	<p>高齢者を対象とした寿大学及び寿大学趣味クラブを開設した。</p> <p>幼稚園、小中学校 P T A に家庭教育学級の実施を委託し、親の役割と青少年の育成等について、各種事業を実施した。</p> <p>県、大学の研究機関等による市民講座として、水産・海洋学講座を 4 回実施した。</p>			
今 後 の 課 題 方 向 性	各種事業・講座で受講者の減少が見られることから、今後新たな講座開設に向けて検討を行う必要がある。			
教 育 委 員 評 価	A	十分成果が上がって良好に行われている		
	B	成果が上がって概ね良好に行われている		
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要		
評 価 に 対 す る コ メ ン ト	各種事業・講座に参加する受講者の満足度は高いが、受講する人数が減少しているため、P R 方法の検討も必要である。今後新たな講座等を開設し、生涯学習の場を広げたい。			

平成 29 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 28 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 4 いつでも、だれでも生涯にわたり学習できるまちを目指します。		
	◇生涯学習活動の推進	○図書館ボランティアとの連携による 図書館サービスの充実	
事 業 等	図書館管理運営事業	担 当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	○図書館ボランティアとの連携による取組 おはなし会 2回開催（おはなしボランティア2グループ参加） ファーストブック 6回開催（登録者6人 延べ29人） 蔵書点検補助 2回（登録者3人 延べ4人） 館内展示物作成 9回（登録者1人 延べ9人）		
検 証	児童サービス、館内サービスなど、幅広くボランティアの受け入れを行っている。しかし、市内ボランティアの人材不足により、1人が多くのボランティアを掛け持ちするなど多忙であったり、ボランティアグループの高齢化により参加回数が減っている。		
今 後 の 課 題 方 向 性	ボランティアグループによるおはなし会については、図書館員が参加し一緒におはなし会を開催することで、負担を軽減し、気軽に参加できるようにすることで高齢者になっても続けられる配慮や工夫をする必要がある。 また、読み聞かせボランティア養成講座を開催したり、貸出以外の図書館サービスの内容を積極的にPRするなど、ボランティアのすそ野を広げる活動を行っていく必要がある。		
教 育 委 員 評 価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評 価 に 対 す る コ メ ン ト	幅広くボランティアの受け入れがなされているが、図書館ボランティア養成講座を開催するなど新たな人材を開拓するための取り組みを検討したい。		

平成 29 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 28 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 4 いつでも、だれでも生涯にわたり学習できるまちを目指します。		
	◇生涯学習活動の推進	○社会教育団体などの自主的学習活動の支援	
事 業 等	社会教育団体などの自主的な学習活動の支援	担 当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	公民館や小・中学校施設（体育館、グラウンド）における使用料の減免措置をし、自主的な学習活動への支援を実施。		
検 証	社会教育団体などの公民館や小・中学校施設（体育館、グラウンド）における施設使用について減免措置を実施したことから、自主的な学習活動への支援につながった。		
今 後 の 課 題 方 向 性	社会教育団体等の申請件数が増えるよう、生涯学習活動の推進に取り組んでいきたい。		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	今後も、幅広く生涯学習の活動推進に努めたい。		

平成 29 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 28 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 4 いつでも、だれでも生涯にわたり学習できるまちを目指します。		
	◇学習施設の再編、整備	○新たな図書館の建設	
事 業 等	図書館協議会等	担 当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	<p>図書館は、築 41 年が経過し、施設の老朽化、耐震性能の不足、蔵書スペースの狭隘、設備不足などの問題が顕在化している。またユニバーサルデザインに対応しておらず、駐車場も 4 台しか利用できないなど、安全性、利便性から言っても限界にきている。このような状況に加え、公用施設に求められる災害に対する安全性の確保などの観点からも早急な対応が求められる。以上の状況から、新たな図書館建設については、整備も視野に、候補地を選定する必要がある。安全性利便性の高い図書館とするため、引き続き調査研究が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県内先進図書館への視察研修に参加 ・ 施設、システム、備品等の業者及び他市図書館との情報交換 		
検 証	<p>図書館の安全性、利便性の問題等の観点から、図書館協議会委員の意見や要望を聴取した後、平成 23 年 8 月、「新下田市立図書館基本構想（市庁舎との複合施設）」を策定した。市庁舎との合築が「新庁舎建設基本構想」に盛り込まれることとなり、計画は進行していくかに見えたが、平成 26 年、県賀茂総合庁舎移転計画が浮上するに伴い、跡地への移転計画が持ち上がった。しかし、状況の変化により、いずれの案も実現することはなかった。また、平成 29 年には、稲生沢中学校隣接地への新庁舎移転計画が公にされるに及んで、「図書館の併設は財政的に難しい。」との見解が示された。上記のように、新しい図書館をめぐる状況は目まぐるしく変転し、財政面や建設地の問題から、図書館単独での検討を行える状況ではなかったため、担当者レベルでの調査研究に終始してしまった。</p>		
今後の課題 方 向 性	<p>平成 29 年 3 月策定された「下田市公共施設等総合管理計画」に基づき、全庁的な取り組みの中で、公共施設等で求められる安全・安心や、市民に提供している行政サービスの水準を確保しながら、財政負担の軽減や将来的な人口減少、少子高齢化の進展を見据えた新たな公共施設のあり方とマネジメント方法を検討していくとともに、計画との整合性を図りつつ、図書館協議会等と協議しながら、図書館の施設、サービス、運営のあり方について検討していきたい。</p>		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	<p>「下田市公共施設等総合管理計画」に基づき全庁的な検討をするとともに、計画との整合性を図りつつ、図書館の施設、サービス、運営の在り方について図書館協議会等の場で協議を進めたい。</p>		

平成 29 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 28 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 4 いつでも、だれでも生涯にわたり学習できるまちを目指します。		
	◇学習施設の再編、整備	○地域の実情に見合った公民館の再編整備	
事 業 等	公民館管理運営事業	担 当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	○公民館利用状況						
	公民館名	平成 28 年度		平成 27 年度		平成 26 年度	
		件数	利用人数	件数	利用人数	件数	利用人数
	中央公民館	1,276	14,851	1,189	15,103	1,579	21,074
	本郷公民館	206	2,589	145	2,087	161	2,111
	中 公 民 館	239	4,493	229	4,483	231	3,820
	稲生沢公民館	456	4,786	423	6,169	418	5,094
	朝日公民館	222	3,466	236	3,055	284	3,750
白浜公民館	206	4,668	195	3,375	184	3,503	
合 計	2,605	34,853	2,417	34,272	2,857	39,352	
	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時雇賃金（管理人） 1,672 千円 ・光熱水費 3,648 千円 ・修繕料 791 千円 ・特殊建築物定期調査業務委託 153 千円 ・借地料 89 千円 						
検 証	<p>公民館運営審議会を 5 回開催し、昨年度に諮問を受けた「公民館統廃合後の中央公民館のあり方」について引き続き協議し、答申書を作成した。</p> <p>修繕については、中央公民館の管理人室エアコン修繕、稲生沢公民館の入口ドアフローアーヒンジ取替修繕、朝日公民館の照明器具修繕、他 11 件実施した。</p>						
今後の課題 方 向 性	公民館統廃合については、早急に地元区との協議を進め、基本方針に沿って統廃合を進めていく必要がある。						
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている					
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている					
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要					
評価に対する コ メ ン ト	公民館の管理運営については概ね良好に執行されている。既に統廃合した地区と不平等にならないように統廃合を推進していきたい。						

平成 29 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 28 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 5 歴史的・文化的資源を保存、継承し、文化芸術活動を推進します。		
	◇文化施設の整備	○市民文化会館などの施設の改修	
事 業 等	市民文化会館管理運営事業	担 当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	○市民文化会館の管理運営 ・市民文化会館指定管理料 70,430 千円 ・修繕料 13,497 千円		
検 証	平成 18 年度から指定管理者制度を導入し、平成 25 年度より 5 か年の期間で公益財団法人下田市振興公社を指定管理者に指定している。 指定管理者により多彩な文化事業が実施されており、平成 28 年度は、ファミリーコンサート、クラシックコンサート、太鼓のつどい、下田吹奏楽祭等 18 事業が開催され、延べ 6,342 人の入場者があった。また、貸館事業の年間利用者は、92,496 人であった。 修繕については、大ホール舞台設備コンセント交換修繕、大会議室空調設備修繕、他 2 件実施した。		
今後の課題 方 向 性	毎年約 10 万人の利用者があり、伊豆半島南部の文化拠点として定着しているが、建築から 28 年以上が経過し、設備全般にわたり老朽化が顕著になってきており、財政面からも計画的な改修の実施が課題である。		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	計画的な修繕を実施し、市民が安心して利用できる安全な施設づくりを努めた い。		

平成 29 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 28 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 5 歴史的・文化的資源を保存、継承し、文化芸術活動を推進します。		
	◇文化・芸術活動の活性化	○文化事業や講座の開催 ○自主的な文化活動への支援	
事 業 等	芸術文化振興事業	担 当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	○文化事業や講座の開催 <第 61 回下田市芸術祭の開催>																									
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>部門</th> <th>開催日</th> <th>入場者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>前期展示</td> <td>11 月 4 日～6 日</td> <td>989 人</td> </tr> <tr> <td>後期展示</td> <td>11 月 11 日～13 日</td> <td>791 人</td> </tr> <tr> <td>邦楽・邦舞部門</td> <td>11 月 6 日</td> <td>515 人</td> </tr> <tr> <td>洋楽・洋舞部門（第一部）</td> <td>11 月 15 日</td> <td>409 人</td> </tr> <tr> <td>洋楽・洋舞部門（第二部）</td> <td>〃</td> <td>235 人</td> </tr> <tr> <td>俳句大会</td> <td>11 月 5 日</td> <td>21 人</td> </tr> <tr> <td>将棋大会</td> <td>11 月 13 日</td> <td>42 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>・下田市文化協会文化振興事業（芸術祭） 250 千円</p>			部門	開催日	入場者数	前期展示	11 月 4 日～6 日	989 人	後期展示	11 月 11 日～13 日	791 人	邦楽・邦舞部門	11 月 6 日	515 人	洋楽・洋舞部門（第一部）	11 月 15 日	409 人	洋楽・洋舞部門（第二部）	〃	235 人	俳句大会	11 月 5 日	21 人	将棋大会	11 月 13 日
部門	開催日	入場者数																								
前期展示	11 月 4 日～6 日	989 人																								
後期展示	11 月 11 日～13 日	791 人																								
邦楽・邦舞部門	11 月 6 日	515 人																								
洋楽・洋舞部門（第一部）	11 月 15 日	409 人																								
洋楽・洋舞部門（第二部）	〃	235 人																								
俳句大会	11 月 5 日	21 人																								
将棋大会	11 月 13 日	42 人																								
	○自主的な文化活動への支援 生涯学習課所管施設（公民館や文化会館等）における使用料の減免措置をし、自主的な文化活動への支援を実施。																									
検 証	<p>第 61 回下田市芸術祭を下田市文化協会、下田市振興公社、下田市教育委員会の 3 者で組織した執行会をもとに開催した。</p> <p>その他、年 1 回の会報の発行や、合同写真展の開催、文化協会加盟団体の一覧資料を作成し、市内芸術活動の発展向上、普及に寄与した。</p> <p>各文化・芸術団体の生涯学習課所管施設における施設使用について減免措置を実施したことから、自主的な文化活動への支援につながった。</p>																									
今 後 の 課 題 方 向 性	<p>これまで、下田市文化協会を中心に、市内の文化・芸術活動の推進を図ってきたが、会員の高齢化や会員の減少に伴い、事業の実施に支障をきたしてきている。今後は、後継者の育成やそれに伴う文化・芸術活動に関する一層の普及活動への取組みが必要であるといえる。</p> <p>また、こうした活動の中核を担ってきた下田市文化協会事務局のあり方についても、検討すべき時期にきていると思われる。</p>																									
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている																								
	B	成果が上がって概ね良好に行われている																								
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要																								
評価に対するコメント	定例の事業を実施しながら、少しずつ新しい取り組みを着手し、課題が明確にされている事業は、その解決を図っていきたい。																									

平成 29 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 28 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 5 歴史的・文化的資源を保存、継承し、文化芸術活動を推進します。		
	◇文化財の保存、継承と活用	○国、県、市の指定文化財の保存と活用 ○民俗芸能などの地域文化の継承 ○埋蔵文化財の保護・保全	
事 業 等	芸術文化振興事業	担 当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>○国、県、市の指定文化財の保存と活用</p> <p><文化財保護審議会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財保護審議会委員報酬 36 千円 <p><文化財保護事業補助金></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大日如来坐像保存修理事業補助金 2,709 千円 (内訳) 仏像保存修理 306 千円、 収蔵庫保存修理 2,403 千円 <p><吉田松陰寓寄処管理></p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨時雇賃金(管理人) 1,395 千円 ・光熱水費等 44 千円 <p><歴史講座></p> <ul style="list-style-type: none"> ・5回の連続講座「南豆の歴史を後世に」を実施(延べ315人の参加) <p>○民俗芸能などの地域文化の継承</p> <p><平成28年度伝統文化親子教室事業申請事務補助(文化庁補助金)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・申請団体:2件(下田書道会、日本将棋連盟 下田支部) <p>○埋蔵文化財の保護・保存</p> <ul style="list-style-type: none"> ・埋蔵文化財包蔵地の照会:33件 		
検 証	<p>文化財保護審議会を2回実施し、大日如来坐像保存修理事業、下田城址の地形測量、三穂ヶ崎洞窟遺跡調査等について報告した。</p> <p>蓮台寺の天神神社にある国指定重要文化財の「大日如来坐像」と「収蔵庫」の保存修理として、国、県、市で補助金を交付した。</p> <p>静岡県指定史跡である吉田松陰寓寄処の入場者数は3,404人、入場料収入は331千円であった。</p> <p>また、連続講座を実施し、下田に関する歴史を再認識し、地元研究者による専門性の高い講座内容を提供することで、市民の余暇活動の充実を図った。</p>		
今 後 の 課 題 方 向 性	指定文化財等の適切な管理及び活用が課題である。		
教 育 委 員 評 価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評 価 に 対 す る コ メ ン ト	今後も指定文化財等の保護と管理に努め、所在確認等を励行し、地域文化の継承についても引き続き行っていきたい。		

平成 29 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 28 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 5 歴史的・文化的資源を保存、継承し、文化芸術活動を推進します。		
	◇郷土資料の保存、継承と活用	○郷土資料の保存や研究と市史編纂事業の実施 ○郷土の文化財などの学習活動への支援	
事 業 等	市史編さん事業	担 当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>○「下田市史 別編 幕末開港」印刷（500 冊） 2,201 千円</p> <p>○ 刊行記念講演会 平成 29 年 2 月 5 日（日） 参加者：100 名</p> <p>①「下田市史通史編の発行にあたって」 講師：下田市史編さん委員長 原 秀三郎</p> <p>②「幕末開港と下田奉行所の幕臣たち」 講師：国立歴史民俗博物館教授 樋口雄彦</p> <p>・講師謝礼 60 千円</p>		
検 証	<p>昭和 53 年から事業を開始し、考古・古代・中世・近世・幕末開港の各分野における資料編を刊行している。</p> <p>平成 28 年度は、下田における一番重要な「幕末開港」期をまとめた通史編「下田市史 別編 幕末開港」を刊行し、刊行記念として執筆者による記念講演会を実施した。</p> <p>また、考古から近世にかかる各分野の資料調査と原稿執筆を行った。</p>		
今 後 の 課 題 方 向 性	早期の通史編刊行が課題である。		
教 育 委 員 評 価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評 価 に 対 す る コ メ ン ト	早期の通史編の刊行に努めるとともに、各分野で資料収集・解説した内容を、成果発表の場として計画し、市民を対象に講演会等開催を検討していきたい。		

平成 29 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 28 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 6 市民がいつでも気軽にスポーツができるまちづくりを目指します。		
	◇施設の有効活用	○学校施設の一般開放	
事業等	保健体育総務事務	担 当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	<p>○市民の体育及びレクリエーションの振興を図るため、下田市が設置する小学校及び中学校の施設（体育館、グラウンド）を開放し、各スポーツ団体に活動場所を提供。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・光熱水費 584 千円 ・修繕料 650 千円 		
検 証	<p>平成 28 年度の利用状況は、体育館 2,283 件 33,462 人、グラウンド 407 件 7,161 人であった。</p> <p>修繕については、下田小学校体育館の仕切りネット等を実施した。</p>		
今後の課題 方 向 性	<p>競技スポーツの振興、スポーツ関係団体の育成を図る上で、施設の適正な維持管理が必要である。</p>		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	<p>今後も施設利用者が安心安全に利用できるように、適切な管理運営に努めた い。</p>		

平成 29 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 28 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 6 市民がいつでも気軽にスポーツができるまちづくりを目指します。		
	◇施設の有効活用	○利用者のニーズに応える施設整備	
事 業 等	下田市民スポーツセンター管理運営事業 吉佐美運動公園管理運営事業	担 当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>○下田市民スポーツセンター管理運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下田市民スポーツセンター指定管理料 17,690 千円 ・下田市民スポーツセンター指定管理料（その 2） 1,461 千円 ・修繕料 3,240 千円 ・陶芸窯置場整備工事 2,675 千円 ・電気窯購入（1 基） 1,700 千円 <p>○吉佐美運動公園管理運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吉佐美運動公園管理業務委託 972 千円 ・草刈機修繕 37 千円 ・光熱水費 129 千円 		
検 証	<p>下田市民スポーツセンターは、平成 18 年度から指定管理者制度を導入し、平成 25 年度より 5 か年の期間で公益財団法人下田市振興公社を指定管理者に指定している。</p> <p>平成 28 年度の利用状況は、2,282 件 62,397 人、利用料収入は、3,991 千円であった。修繕については、視聴覚室とロビーの空調設備修繕を実施した。</p> <p>また、下田市民スポーツセンターの中庭に陶芸窯置場を設置し、高齢者生きがいプラザで使用していた陶芸窯 1 基を移設、新たに 1 基購入し、陶芸利用者の活動の場を創出した。</p> <p>吉佐美運動公園の管理は、エルダーの会に委託し、平成 28 年度の施設の利用は、軟式野球、グラウンドゴルフを中心に 188 件、7,425 人であった。</p>		
今後の課題 方 向 性	<p>下田市民スポーツセンターについては、施設の老朽化による修繕の対応が課題である。</p> <p>吉佐美運動公園については、今後も適正な維持管理に努め、利用しやすい公園として整備していきたい。</p>		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	<p>今後も多くの市民が安心安全に利用できるように、適切な管理運営と市民サービス向上に努めたい。</p>		

平成 29 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 28 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 6 市民がいつでも気軽にスポーツができるまちづくりを目指します。		
	◇スポーツの振興	○市民が気軽に参加できるスポーツ イベントの開催	
事業等	社会体育活動推進事業	担 当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	○各種イベント		
	グラウンドゴルフ大会	参加者 144 名	
	ふれあい広場（軽スポーツ）	参加者 178 名	
	第 45 回下田・河津間駅伝競走大会	参加チーム 73 チーム	
検 証	年 2 回、下田市スポーツ推進委員会を開催し、グラウンドゴルフ大会、ふれあい広場にての軽スポーツ体験ブースを開催した。 また、下田・河津間駅伝競走大会等のスポーツ事業に対し、支援・協力を行った。		
今後の課題 方 向 性	スポーツの振興のため、新たなスポーツ教室などを開催することが求められる。		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	グラウンドゴルフのように広く市民に愛されるような新たなスポーツ教室の検討を進めたい。		

平成 29 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 28 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 6 市民がいつでも気軽にスポーツができるまちづくりを目指します。		
	◇スポーツの振興	○NPO法人などと連携した 総合的なスポーツの振興	
事 業 等	社会体育活動推進事業	担 当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	○下田市スポーツ祭委託 168 千円 ○下田市体育協会補助金 145 千円 <12 団体> 陸上競技協会、サッカー協会、テニス協会、バレーボール協会、野球連盟、 水泳協会、グラウンドゴルフ協会、ソフトテニス協会、ビーチバレー協会、 弓道連盟、ゴルフ連盟、合気会		
検 証	競技スポーツの振興、スポーツ関係団体の育成を図るため、下田市体育協会に委託し、下田市スポーツ祭を開催した。		
今 後 の 課 題 方 向 性	下田市体育協会との連携について、競技人口の多いスポーツが加盟団体となっているため、メジャースポーツのより一層の発展を検討していく必要がある。		
教 育 委 員 評 価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評 価 に 対 す る コ メ ン ト	下田市体育協会との連携について、メジャースポーツだけでなくマイナースポーツにも焦点を当てるなど、加盟団体が増え、各種競技が活発に行われるよう推進していきたい。		

平成 29 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 28 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 6 市民がいつでも気軽にスポーツができるまちづくりを目指します。		
	◇スポーツの振興	○地域の指導者との連携による健康づくり支援	
事業等	社会体育活動推進事業	担 当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	<ul style="list-style-type: none"> ・下田市スポーツ推進委員会（年 2 回開催） ・新体力テスト（3 年に 2 回実施） 		
検 証	<p>下田市スポーツ推進委員会について 2 回開催し、市スポーツの事業計画・事業実施について協議を行った。</p> <p>スポーツ庁が実施している体力・運動能力調査（新体力テスト）について実施した。実施方法については検討を重ね、効率的かつ効果的な事業実施を行った。記録証の発行についてもレーダーグラフを用いるなど、参加者がわかりやすく結果表示するように努めた。</p>		
今後の課題 方 向 性	<p>新体力テストは 3 年に 2 回実施ということで実施しない年もあるため、実施方法について検討し、効率的かつ効果的な事業実施について、抜本的に見直しを行う必要がある。</p>		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	<p>新体力テストの記録証のレーダーグラフ等、参加者にわかりやすく表示する取り組みは良いことである。今後も細かな配慮を着実に進めるとともに、更に検討を重ねスポーツの振興に努めたい。</p>		

6 有識者委員会

下田市教育委員会の点検・評価に対する学識経験者等による知見の活用については、平成 29 年 10 月 27 日に下田市教育委員会の点検評価に関する有識者委員会を開催しました。

(敬称略)

役 職	氏 名	所 属
委 員 長	進 士 司	前下田市社会教育委員長
副 委 員 長	田 中 豊	下田商工会議所会頭
委 員	高 寺 輝 行	教育関係者
委 員	鈴 木 清 文	教育関係者

7 有識者委員会の意見

平成 28 年度事業の点検評価は、下田市教育大綱に位置付けられた 6 つの目標のうち、教育委員会の内部評価を経た 37 事業について実施しました。

教育委員会の内部評価では、37 事業中 4 事業を「十分効果が上がって良好に行われている」、31 事業を「成果が上がって概ね良好に行われている」、2 事業を「成果が十分に上がっておらず改善が必要」と評価されました。

点検評価に際しては、下田市教育委員会から提出の自己点検・評価シート、主要な施策の成果等の資料を基に担当課長及び係長からの説明並びに教育委員からの補足説明を聴取し、質疑応答を行いました。

有識者委員会としては、各事業の点検・評価シートにおいて、各事業について高く評価する点や今後の改善が期待される点などを指摘しましたが、全体的には概ね良好な実施状況であるとして、教育委員会の点検評価を承認しました。

今後も、下田市教育行政における責任体制の明確化、迅速な危機管理体制の構築、市長と教育委員会との連携の強化を図り、下田市教育大綱における本市の基本理念である『開国のまちから 夢をつなぐ「未来の人づくり」「自ら学ぶ人づくり』』の推進に努めていただきたい。

教育大綱の 6 つの目標ごとの意見要旨は、以下のとおりです。

【目標 1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。】

- ・市指定研究校への支援について、学校の小規模化が進む中で市内の全教職員が参加されたようですが、そういった市内教職員のまとまりという部分は、非常に評価したい。
- ・いじめ問題への対応として、「一人ひとりを大切にした授業」という部分は本当に大切であるため、今後も継続し続けてほしい。
- ・幼稚園と小学校との連携について、現状として子どもの実態が把握しきれていないと感じるため、その解決に向けた取り組みを検討してほしい。
- ・下田小避難路整備について、今後も継続して安全対策を実施してほしい。
- ・人権意識を育む学校づくりについて、子どもたちと同様、教職員自身も人権感覚を養うことは非常に重要だと考えているため、その向上に努めてもらいたい。
- ・防災教育について、学校防災教育は非常に進んでいるため、地域防災の中に上手く学校防災教育を取り入れることで、より防災力が向上するのではないかと考えている。

【目標2 「生きる力」の基礎を育む就学前教育を推進します。】

- ・特に意見等なし。

【目標3 家庭、地域、学校と関係機関が連携し、豊かな感性と社会性のある青少年を育成します。】

- ・田牛の青少年海の家について、建物自体の整備は現状としてなかなか困難だと思われるが、利用者数を考慮すると、せめてトイレや水回り等の整備を検討してほしい。
- ・文化や芸術、スポーツなどの青少年活動との連携について、ぜひとも下田の歴史や風土を活かした事業を検討してほしい。
- ・非行防止に向けた運動の推進について、これまでと同様、今後も継続してパトロール等を重視し実施してほしい。

【目標4 いつでも、だれでも生涯にわたり学習できるまちを目指します。】

- ・市立図書館について、駐車場スペースが少ないなど喫緊の課題について、早急に対策を講じてほしい。
- ・図書館ボランティアの人材不足については、高校生など活用するなど枠を広げるような対策を講じてほしい。

【目標5 歴史的・文化的資源を保存、継承し、文化芸術活動を推進します。】

- ・文化協会事務局のあり方について、会員の高齢化なども恐らく懸念されていると思われるが、来年度に向け、どう活動を広げていくなど、先進地事例を参考に検討を進めてほしい。

【目標6 市民がいつでも気軽にスポーツできるまちづくりを目指します。】

- ・マイナースポーツについて、スケートボードやフットサルなどは、既存施設等の改修などの何らかの対策をぜひとも検討してほしい。県賀茂振興局で賀茂地域は「ワークライクバランス」として、スポーツや趣味などは東京に負けないという1つの方向性を1市5町の子どもたちがワークショップを行った結果として示したが、そこに何かヒントがあるのではないかと考えている。
- ・合宿誘致などは東海道沿線だと場所がないと聞いたことがあり、下田においては民宿などを上手く活用することにより、今以上に人を呼べるのではないかと考えている。
- ・下田市の活動を外に対して、発信していくことも非常に重要なことだと感じている。

8 下田市教育委員会点検評価に関する有識者委員会設置要綱

平成21年7月27日教育委員会告示第9号

(設置)

第1条 下田市教育委員会（以下「教育委員会」という。）の権限に属する、事務・事業の管理及び執行の状況についての点検・評価を行うことで、地域の実情と住民ニーズに応じ、より効果的な教育行政の推進に資するとともに、事務・事業の管理及び執行状況についての透明性の確保と市民への説明責任を果たすため、下田市教育委員会点検評価に関する有識者委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事務を所掌する。

- (1) 教育委員会が実施する事務・事業の点検評価に関すること。
- (2) その他委員会が必要と認める事項

(組織)

第3条 委員会は、委員5人以内で組織する。

- 2 委員は、教育に関する識見を有する者のうちから教育委員会が委嘱する。
- 3 委員の任期は、2年とする。ただし、再任は妨げない。
- 4 委員に欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長は、委員の互選によりこれを定める。
- 3 副委員長は、委員のうちから委員長が指名する者をもって充てる。
- 4 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。
- 5 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 委員会の会議は、委員長が招集し、委員長が会議の議長となる。

- 2 委員長は、必要に応じて会議に委員以外の者の出席を求め、その説明又は意見を聞くことができる。
- 3 委員会の会議は、原則として公開とする。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、教育委員会学校教育課において処理する。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この要綱は、公示の日から施行する。
- 2 第3条第3項本文の規定にかかわらず、初回の委員の任期は、平成23年3月31日までとする。

平成 29 年度(平成 28 年度実績事業)
下田市教育委員会自己点検・評価報告書

発行日 平成 29 年(2017 年) 11 月

発 行 下田市教育委員会

〒415-0024 静岡県下田市四丁目 6 番 16 号

TEL 0558-23-3929 FAX 0558-23-5176

E-Mail s-kyoui@city.shimoda.shizuoka.jp